

／ 発がん性物質 PFAS (ピーファス) から水の安全を守れ ／

汚染源の究明と汚染状況の調査を

4/5

発がん性が疑われる有機フッ素化合物PFAS (ピーファス) が東京都の米軍横田基地の周辺など多摩地域の井戸水や水道水から見つかった問題で、日本共産党と住民は15日、汚染源の究明と汚染状況の調査を国に求めました。



PFAS について国に説明を求める (前列左から) 吉良よし子、山添拓の両参院議員=15日、衆院第一議員会館 (しんぶん赤旗提供)

有機フッ素化合物 PFAS (ピーファス) についての詳しい情報は裏面にあります。ぜひご覧ください。

PFAS をめぐり、市民団体が多摩地域の住民の血液検査をしています。いち早く分析結果が公表された国分寺市では高い血中濃度が示されました。同市の住民は「若いママさんは『子どもの食べ物に気をつけていたのは何だったのか』と怒っている。住民は驚くと不安のただなかにあると分かってほしい」と述べました。

議員団は、水と血液の検査を国に求めました。

血液の調査について環境省は、今後同省が設置した専門家会議で検討すると答えました。

参加者からは「PFASが入った泡消火剤を、米軍は基地でいつからどれくらい使ったか調査を」「専門家会議で住民の意見を聞いてほしい」「浄水場で除染を」などの意見が出ました。

4/3

都委員会と都議団、多摩地域の市町村議員団 小池百合子都知事に申し入れ

地域住民が自主的な血液検査に取り組んでいることを紹介し、

- (1) PFASが検出された水源井戸の取水を停止する
- (2) 水源井戸だけでなく災害用、環境調査用、農業用などの調査を行う
- (3) PFASによる地下水汚染の原因調査を行い、横田基地周辺も調査する
- (4) 都としてPFAS血中濃度の疫学的調査を行う

ことなどを求めました。

環境局は「できるだけ早く実態を把握したい」と回答しました。



東京都水道局による調査で、何らかの濃度でPFASが検出された浄水所は、多摩地域の30市町村のうち21自治体40浄水所に広がっていることが分かりました(「東京民報」2022年12月25日号より)

汚染の拡大を防ぎ、住民を健康被害から守る手だて急げ!

これからも国会、都議会、
区市町村議会の場で連携して、
大事な「水の安全」を求めていきます



参議院議員 (東京選挙区選出)

やまぞえ・たく

山添 拓

東京
民報

ご連絡・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590

2023年2月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社 (港区芝 1-4-9 平和会館 5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

日本共産党

汚染源の究明と汚染状況の調査を

4/5

発がん性が疑われる有機フッ素化合物PFAS (ピーファス) が東京都の米軍横田基地の周辺など多摩地域の井戸水や水道水から見つかった問題で、日本共産党と住民は15日、汚染源の究明と汚染状況の調査を国に求めました。



PFASについて国に説明を求める(前列左から)吉良よし子、山添拓の両参院議員=15日、衆院第一議員会館(しんぶん赤旗提供)

有機フッ素化合物PFAS(ピーファス)についての詳しい情報は裏面にあります。ぜひご覧ください。

PFASをめぐり、市民団体が多摩地域の住民の血液検査をしています。いち早く分析結果が公表された国分寺市では高い血中濃度が示されました。同市の住民は「若いママさんは『子どもの食べ物に気をつけていたのは何だったのか』と怒っている。住民は驚くと不安のただなかにあると分かってほしい」と述べました。

議員団は、水と血液の検査を国に求めました。

血液の調査について環境省は、今後同省が設置した専門家会議で検討すると答えました。

参加者からは「PFASが入った泡消火剤を、米軍は基地でいつからどれくらい使ったか調査を」「専門家会議で住民の意見を聞いてほしい」「浄水場で除染を」などの意見が出ました。

2/3

都委員会と都議団、多摩地域の市町村議員団 小池百合子都知事に申し入れ

地域住民が自主的な血液検査に取り組んでいることを紹介し、

- (1) PFASが検出された水源井戸の取水を停止する
- (2) 水源井戸だけでなく災害用、環境調査用、農業用などの調査を行う
- (3) PFASによる地下水汚染の原因調査を行い、横田基地周辺も調査する
- (4) 都としてPFAS血中濃度の疫学的調査を行う

ことなどを求めました。

環境局は「できるだけ早く実態を把握したい」と回答しました。



東京都水道局による調査で、何らかの濃度でPFASが検出された浄水所は、多摩地域の30市町村のうち21自治体40浄水所に広がっていることが分かりました(「東京民報」2022年12月25日号より)

汚染の拡大を防ぎ、住民を健康被害から守る手だて急げ!

これからも国会、都議会、
区市町村議会場で連携して、
大事な「水の安全」を求めていきます

東京民報

ご連絡・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2023年2月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

日本共産党

米軍基地や工場の周辺など、各地の河川や地下水などから検出されている有機フッ素化合物「PFAS」。人体や動物への悪影響を指摘する研究結果が数多く報告され、世界的にも規制の動きが強まっています。そうしたなか沖縄や東京・多摩地域で、住民団体が自主的に血液調査を実施する動きも。日本の行政の対応が問われています。(中村秀生)

衣類・容器：幅広く使用

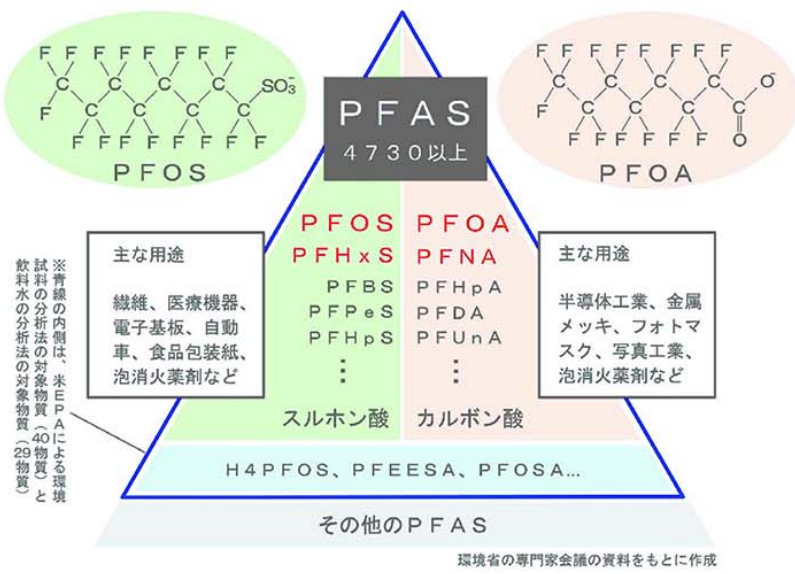
PFASは、有機フッ素化合物のうちペルフルオロアルキル化合物とポリフルオロアルキル化合物の総称。水や油をはじく性質をもち、熱的・化学的に安定なため、人工的につくられて幅広い用途に使われてきました。環境中で分解されにくいことから「永遠の化学物質」と呼ばれています。

PFASは、鎖のように連なる炭素(C)にフッ素(F)が結合した構造をもっており、炭素鎖の長さや官能基が異なる4730種類以上の物質が国際機関に特定されています。代表的な物質が「PFOS」(ペルフルオロオクタンスルホン酸)と「PFOA」(ペルフルオロオクタナ酸)です。(図)

米軍基地や工場周辺で検出

PFASって?

有機フッ素化合物



衣類や容器、家具などの防水加工、泡消火剤などに大量に使われてきました。PFOAは、米デュポン社が開発した焦げつきにくいフライパンや鍋などの加工に使われたほか、日本のダイキン工業が大坂・摂津市内の工場で使用するなど、各地で製造・使用されました。これが排水などとして流出したり土壌に入り込んだりして、飲み水や環

境を汚染。周辺住民や現場労働者の体内に蓄積していることが明らかに。3M社が2000年にPFOSの生産中止を発表するなど、早くから問題になってきました。泡消火剤に使われることから、消防士の健康影響も懸念されています。「残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約」のもとで、製造・使用・輸出入について、

PFOSは09年に制限の対象に、PFOAは19年に原則禁止の対象に決定。日本でも現在、これらの製造・輸入は原則禁止とされています。同条約では、PFHxS(ペルフルオロヘキサスルホン酸)も原則禁止の対象リストへの掲載が決定。PFNA(ペルフルオロノナン酸)など6種類も、候補物質として検討が進んでいます。